

# おうちで楽習保育®をやってみよう

## コミュニケーション あそび編

子どもは、日々の生活の中で、周りの大人や子どもたちとコミュニケーションをとりながら、様々なことを学び、成長していきます。

園では、「きく」「はなす」「よむ準備」「かく準備」の4つを柱にしたコミュニケーションあそびを通して、人との関わりの中で言葉を伝え、思いをやり取りする力を育み、コミュニケーション力を伸ばしていけるようにしていきます。

「コミュニケーションあそび」編では、保護者の皆さまからのご質問にお答えしながら、ご家庭で楽しくできるあそびをご紹介します。

**コミュニケーションまるごと**

**Q&A** 保育施設に通う保護者様からよくある質問に専門家が答えます!!

**Q** 子どもがTVやタブレットで動画を見たがるのですが、好きなだけ見せても良いですか？

**A** 現代社会では、子どもにとってタブレットやテレビなどのツールは刺激が強く、つい長時間見入ってしまうことがあります。しかし、タブレットを子どもに渡せばなしにするのは良くありません。

年齢を考慮して時間を決め、親子でのコミュニケーションのツールとして活用しましょう。

また、動画で見たことを散歩やお出かけでの具体的な体験や経験と結び付けていくと、感性を育むことができます。



**Q** ひらがな・カタカナを覚える前にやっておいたほうが良いことはありますか？

**A** 小さい頃から絵本の読み聞かせをすることで、子どもは文字に興味を持つようになります。

また、クレヨンでなぐり描きをしたり、シール貼りなど手先指先を使った遊びをすることで、文字を書くときに必要な手や指の力が鍛えられます。

さらに、全身を使った遊びをすることで、文字を書くための体力もつけられます。

親子で一緒に遊びながら、子どもが文字を書くことに興味を持てるようにしましょう。



**Q** ママ・パパとは話をしますが、友達同士だと話をしていないようで心配です。

**A** 子どものコミュニケーション能力を高めるには、身近な人からの日々の働きかけが大切です。

挨拶は、コミュニケーションにおいてもっとも最初に行われるやりとりです。

親御さんが積極的にする姿を見せることで、子どもも挨拶をするようになります。挨拶ができたならたっぷり褒めてください。小さな成功体験の積み重ねで、友だちとの会話が広がっていくでしょう。

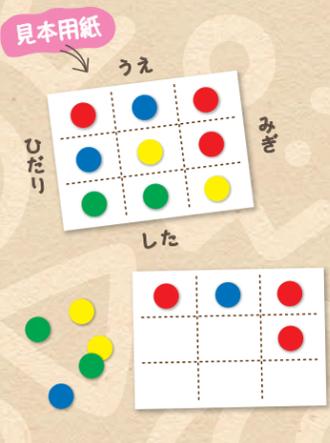


### お家でできる コミュニケーションあそび

#### 1 ミッション！コピーせよ！

**あそびの効果** 見本を見ながら同じようにタックシールを貼ることで、指先を細かく動かす能力や、空間の位置や大きさ、関係を理解する能力、見よう見まねで物事を習得する能力、自分の考えや行動を確かめる能力、自分の考えや気持ちを言葉で伝える能力につながります。

- 1 指令を受ける（見本用紙をもらう）
- 2 見本用紙と同じ配列にタックシールを貼る
- 3 コピーできているか一緒に確認



マス目の大きさ、数によってあそびのレベルが変化し、上下左右の文字を入れることで空間認知能力が高まります！

**高レベル** 手本を言葉で伝えコピーします。「右の一番上の赤」等



楽習保育®YouTubeチャンネルにも、あそびを公開しています。たくさん集めたアイスの棒で色パズルをつくってみよう！色合わせ！同じ色はどこどこ？よ〜くみて！！

「楽習保育チャンネル」で検索！

ぴったり合うかな？同じ色を探せ！アイスの棒で色パズルあそび <https://youtu.be/uwQ3vg0C-6w>

#### 2 まねっこポーズ

自分の体を使って、感情や考えを表現することで物事を正しく理解し、判断するために必要なものです。

考えるための言葉を身につけることで、自分の考えを他人に伝えたり、他人の考えを理解したりすることができます。

想像力と創造力とは、新しいものを生み出す力です。あそびながら身につけられるといいですね。

- 1 一人がポーズをする「♪こんなポーズできるかな？ポーズ」
- 2 ポーズをまねる
- 3 写真に撮る
- 4 同じか検証



**高レベル** 文字の形を体で表現 ⇒ 点などをどう表現するか考える  
数人で協力して表現 ⇒ 話し合う言葉の習得

#### 専門家の声 VOICE



コミュニケーション能力とは、相手の気持ちを大切にしながら、自分の気持ちも伝えることができる対話能力とも言えます。

そのために「ことば」がとても大切な役割を果たしています。生きていく上で経験する様々な場面で触れる「ことば」を身につけていくことは、人として豊かに生きる力を育むこととなります。

それは自然に身につくものではなく、周りの大人が、言葉を受け止めたり、気持ちを推測して言葉を返すことで、事物や事象を言葉と結びつけます。

その原点は、やはりご家族の存在でしょう。子どもの話を聞く時は、目を見ながらしっかりと聞き共感の言葉を伝えたり、相づちを打ちましょう。まだ上手く話せなくても「ゆっくりでいいよ」と待ってあげてください。子どもは、自分の話を聞いてくれる喜びを感じるたびに人の話を聞こうとする気持ちや態度が育まれ相手との信頼関係を築くことにも繋がっていきます。

また、言葉の表現の豊かさは単に言葉をたくさん知っているだけでは生まれません。経験に裏打ちされたものですから、言葉を覚え、使い、伝え合うあそびを親子で一緒に繰り返し楽しみながら、コミュニケーション能力を高めていきましょう。